コミュニケーションから考える作文指導の在り方

島　内　直　英

VISIO No.45

九州ルーテル学院大学
Kyushu Lutheran College

December　2015

コミュニケーションから考える作文指導の在り方

島　内　直　英

An Observation on Teaching How to Write from the Point of Communication

Naohide Shimauchi

1　はじめに

巷には「表現力」、「作文技術」、「論文の書き方」などという文言がついたタイトルの本が溢れている。高校生には、就職試験はもとより、大学入試でＡＯ試験や推薦入試が増え、作文は必須となっている。大学進学では、「平成12年度と平成24年度の入試制度を比較した資料によると、･･･大学生の半数近くが、推薦入試やＡＯ入試等で入学する時代になっている」[1]という現実があり、個別教科の学力よりも作文力が不可欠な能力となっている。合格した大学では、日常の講義におけるレポート提出は当然のことながら、大学生活のまとめとして卒論があることから、論文作成能力は必要条件となっている。筆者の勤務する大学では、一年次前期に「フレッシュマン・ゼミ」を設定し、新入生に基本的な読解力の育成や作文の書き方などの指導に取り組んでいる。併せて資料・情報収集の仕方や、昨今大きな問題となっている著作権遵守の観点から、他人の文章を引用する際のマナーや注意点なども指導している。

さて、英語教育においても、コミュニケーション力が必要であると言われて久しい。最近では産業界でも「英語が使える日本人」を要望する声が強くなり、外部試験による英語力評価や大学入試への積極的な活用も提言されている。同様に英語教師には高い語学力が期待されており、個々人の英語力測定に外部検定試験が推奨され、各県ごとの中学や高校の先生の検定取得状況が定期的に公表されるようになっている。

ところで、コミュニケーション力とは具体にどのような能力を指しているのだろうか。また、学校ではどのような能力を育成すべきなのだろうか。中学校や高等学校の教育活動の指針となる学習指導要領には、英語のコミュニケーション能力向上と国語力向上が併記されていることは注目すべきである。この論文では、コミュニケーションを基軸に「なんのために、何をどんな方法で、いつどんなところで教授し学習するか」[2]考えることとしたい。

2　学習指導要領とは

現在、学習指導要領の法的根拠は、学校教育法施行規則第52条に「小学校の教育課程については、この節に定めるもののほか、教育課程の基準として文部科学大臣が別に公示する小学校学習指導要領によるものとする。」と規定されている。しかし、その成立の背景には、戦後の混乱期であったためか興味深い事情があったようである。戦前は文部省発行の教科書が使われており、教授書という指導書には発音記号だけでなく、続けて読む（⌒）、音調を上げる（／）、下げる（＼）などの記号も添付してある。筆記体の書き方から、筆記体の英文を使用するなどかなり詳細な指導がなされていたことが伺われる。[3]どのような経緯で学習指導要領ができたか振り返りながら、小・中・高・大の連携という視点で英語の「書くこと」について考えてみた。

学習指導要領は、当初『試案』という文言が付いて、昭和22年３月20日に発行されている。その直後の昭和22年（1947年）３月31日に学校教育法が、５月23日には学校教育法施行規則が公布されている。当時の事情について、小泉（2000）は「太平洋戦争終了後、連合軍最高司令官総司令部（ＧＨＱ）は、日本占領政策の大きな柱の一つとしての、教育制度改革を強力に進めた。総司令部は、1946年３月、軍人スタッフに専門的助言を与える目的で、アメリカの著名な教育指導者たちを日本に招聘した。・・・古賀(2000)は、この日本側委員会を構成するメンバーの質の高さと彼らの積極的な取り組みを評価し、その報告書について『それまでの日本の教育における画一主義、記憶中心主義、教科書中心主義が指摘され、児童を中心にして学校や地域に会わせた教育課程の作成が必要なことが述べられている』と解説する。・・・この報告書を受けて、文部省内には教育制度刷新のため、いくつかの機関や委員会が組織された。そのひとつが、教育課程委員会であり、教育課程の作成作業がそこで開始されたのである。指導要領の各教科編も同時に発行され、外国語編（試案）もこの時に発行されている。」と説明している。

3　学習指導要領の変遷とコミュニケーションの概念確立

国立教育政策研究所には、「学習指導要領データベース」[4]が設けてあり、その変遷を辿ることができる。学習指導要領は、その当時の社会情勢の変化に対応した改訂が行われていることがわかる。筆者が気になったことは○をつけて箇条書きに抜き出している。

①　昭和22年学習指導要領外国語編（試案）

昭和20年が終戦であり、それまでの敵国語である英語が熱狂的に学ばれるようになったと言われている。その年に発売された『日米会話手帳』はわずか３か月で360万部を売りつくすベストセラーとなっている。ラジオでは平川唯一氏の「英語会話」の放送が1946（昭和21）年の２月にスタートし「カムカム英語」としてリスナーからの多大な支持を得ている。[5]

この試案には、「社会の要求についての調査」という項目があり、生徒や保護者へのアンケート事項とその結果も掲載している。

○「聴き・話す」を第一次の技能(primary skill)、「読み・書き」を第二次の技能（secondary skill）と区別している。作文については、書き方となっている。

○中学１年の最初の６週間は文字なしで指導するとなっており、現在の小学校での英語活動の

考えに反映されているように思える。

○課外の読みものとして、第10学年の生徒は「次のうちから二つぐらい選んで読むことにする。」となっている。

Lamb: Tales from Shakespeare　　Marden: How to get what you want
Stevenson: Treasure Island　　Stowe: Uncle Tom's Cabin
L. Hearn: Short Stories　　Dickens: A Christmas Car

○高校の書き方で「作り話を書く方法（Creative work)」が最終目標となっている。

○「付録」に「イギリスの音とアメリカの音との相違点に注意し、アメリカの発音に習熟されたい。」とある。

②　昭和26年学習指導要領外国語編（試案）改訂版

昭和22年のものは28ページであったものが、759ページと大幅に増え、しかも日英併記となっている。戦後の復興に果たす外国語教育への強い期待が覗える。教育目標は「一般目標」、「機能上の目標」、「教養上の目標」と３つに分けられている。第一章Ⅱには、「中等教育の目標から派生しこれに統合されるものとしての英語教育課程の目標」となっており、「生徒は単に英語を知るために英語を勉強するのではないし、そうであってはならない」としており、実践的な言語使用場面が登場している。(注：下線＿＿＿は筆者)

教養上の目標には「(a) 聞き方・話し方・読み方および書き方の技能を発達させるにあたって学習経験を、英語を常用語としている人々の生活様式・風俗および習慣から切り離さないこと。かれらの言語は彼らの文化の中核なのである。・・・(d) このような鑑賞と態度との発達が、習得した言語技能とともに、平和への教育の重要な一部として役立つものとなること。」とある。

○理解の技能（perceptive skills）と発表の技能（productive akills）という考えが登場している。英字新聞の購読や英字新聞作成の提案がある。

○高等学校でのディベートについて、「“debate”（この語にぴったり合う日本語はない）という語は、ある論に対して賛成論と反対論とを二つのグループに分れて述べるディスカッションという意味である。」と紹介してあり、次のような学習上の利点を挙げている。

(1)　参加者は興奮して、語学学習に非常によいことである、恥ずかしさを忘れることができる。
(2)　人にわかるように話す非常によい手段となる。
(3)　話をするときの作法の練習になる。
(4)　寛容の態度を示すことを練習し、相手の見解を理解し判断する練習になる。

③　昭和31年学習指導要領外国語編改訂版（高等学校）

昭和30年12月に、高等学校版のみ作られている。高等学校版には、第一外国語（英語）と第二外国語（ドイツ語・フランス語）が設定され、英語だけに限定せず、外国語の学習をとおして、「みずからの教養を高め、我が国の文化の向上を図ろうとする態度を養う」という文言が付け加えてある。これまでの多岐にわたった内容が整理され、控えめになっている。高校での新出語は、１年500-800語、２年600-1000語、３年700-1200語という範囲が設けられ、言語活動も整理されている。

○試案の文字がこの改訂版から消えることになる。

④ 昭和33年学習指導要領外国語編（中学校）と昭和35年学習指導要領外国語編（高等学校）

中学と高校の内容について、中高の接続を意識した表現「慣れさせ」が「習熟させ」に、「能力の基礎を養う」が「能力を養う」となっている。語彙は、中学で1100-1300語となり、高等学校では９単位1500語の「英語Ａ」と15単位3600語の「英語Ｂ」の２科目に分け設定された。

⑤ 昭和44年（中学校）と昭和45年（高等学校）

内容の精選が図られ、高等学校での生徒の能力差に対応した指導ができるように、「初級英語」、「英語Ａ」、「英語Ｂ」、「英語会話」が設定された。「学習活動」の項が「言語活動」と改められている。

○中学校では、読むことについて、「まとまりのある数個の文を読む」「数個の文からなるパラグラフを読む」「数固のパラグラフを読み、その要点をつかむこと」学年進行でレベルが上がっている。

○中学校では、書くことについても同様である。「身近なことについて、文を書くこと」「行なったことなどを文に書くこと。」「行なったことや考えたことを、数個の文に書くこと。日記形式および手紙形式の文を書くこと」とある。

○中学校の総語数は950-1100語となった。高校の英語は2400-3600語と幅をもたせ、生徒の学力に応じて指導することになった。

⑥ 昭和52年（中学校）と昭和53年（高等学校）

高校入学者が９割を超える状況をふまえ、昭和51年（1976年）の教育課程審議会は、「人間性豊かな児童生徒」、「ゆとりある充実した学校生活」「基礎基本の重視と個性、能力に応じた教育」の３つを柱とした教育課程の改善を答申した。特筆すべきは、中学校週３時間となり、言語活動が全学年共通となったことであろう。高校では、難易別に「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」という総合科目を、また「英語Ⅰ」に接続する科目として、「英語ⅡＡ」、「英語ⅡＢ」、「英語ⅡＣ」も設定している。

○中学校の指導内容、特に言語材料は大きく削減され、文型は37種が22に、文法項目は21が13項目になった。関係副詞や現在完了進行形などが高校での学習事項となった。使用可能な総語数は900から1050語、指定語も490語に減少した。

○中学校では、書くことについて、「書こうとする事柄を整理して、大事なことを落とさないように書く」「初歩的な英語を用いて、事柄の概要が伝わるように文を書く」「初歩的な英語を用いて、事柄の要点が伝わるように文を書く」などが登場している。

○言語活動として、高校での各教科の「書くこと」は、中学校の「書くことと同じ」という表現になっている。

⑦ 平成元年

昭和62年から、ＪＥＴプログラムが発足している。この改訂で、「外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」という表現が登場している。

中学校での授業時数を増やすことができるようになったが、総語数は1000語と減っている。高校では、「英語Ⅰ，Ⅱ」に加え、「オーラル・コミュニケーションＡ，Ｂ，Ｃ」が導入され、「リーディング、ライティングを合わせ７科目となった。

○中学校では、「英語で書くことに親しみ、英語で書くことに対する興味を育てるとあり、「伝えようとすることを簡単な文で書くこと」となっている。高校では、「書こうとする内容を整理して、大事なことを落とさないように書くこと。」である。

⑧　平成10年

「ゆとり」、「生きる力の育成」を基本とする教育への転換をめざしたものであった。中学、高校ともに選択科目から必修科目となった。学校週５日制の導入もあり、中学校では、「聞くこと」、「話すこと」を重点化するようになり、総語数は900語程度となった。高校においては、中学との連携をとることが求められ、「四つの領域の言語活動を総合的、有機的に関連させて指導するものとする」となったものの、特定の科目を必修とはしなかったため、総時間数は減少することにもなった。

○言語指導の場面は具体的な例があるものの、どのように指導するかについては具体例は述べられていない。

４　「何のため」のコミュニケーションか －コミュニケーションの変化

(1)　オートメーション化の影響

オートメーション化は、省力化とトラブル防止を可能にしている。ＡＴＭや販売機などは、機器の使用者・利用者双方の時間削減はもちろんであるが、誤解による不要なトラブルを解消することも大きな目的であったようだ。反面、社会生活を送るうえで潤滑油的なコミュニケーションを不要・無用にしている側面もある。また、機器の使用者・利用者双方が機器の使用法の習熟していることを前提にしている。

バスは、ワンマンバスが当たり前となり、見知らぬ街での路線案内を期待することは難しくなっている。スーパーでは、自分で精算を済ますことができるレジも出現してきた。最近では、インターネットでの購入・配達も珍しいことではなくなった。列車や飛行機のチケット販売ではインセンティブ（報奨金）を加味することによりネットでの購入を奨励しているように思う。人とのコミュニケーションは不要となりつつある。

日本は便利であると思うが、海外に行くと日本人の性急さと不寛容さを感じることがある。例えば、自動ドアはこれほど必要なのだろうか。自動ドアは雑菌の進入を防ぐ医療機関や、食品製造業界を除けば、本来は不必要に高くつく電化製品である。古めかしいドアの外国のデパートなどでは、『前の人が次の人のためにドアを開けておく』という暗黙のマナーがあり、必然的に「Thank you」という言葉を交わしたり、無言でも眼を合わせる習慣があるように感じる。また、信号は交通事故減少には有効であろうが、信号がない横断歩道で歩行者への配慮に欠ける場面をしばしば眼にするようになった。交通量の少ないところでは、横断歩道前で停車した車に深々と頭を下げる学童を目にするが、これは弱者に対するマナーの有り様として疑問を感じるのはわたしだけだろうか。

最近、品質の高い日本の商品が性能では劣る海外の商品に市場を奪われている『ガラパゴス化』という言葉が流行っている。これもマーケティングにおける商品開発が消費者の要求に応えきれていないコミュニケーション不足の一例であろう。インターネットが流行りだしたころは、企業

へメッセージを送ることも簡単であったが、最近ではトラブル防止のためか問合せ先を見つけることが困難になり、まずは複雑で膨大なＦＡＱを読まされたりして、かえって不便になっている。利用者が本当に必要と考えているときに、必要な情報にアクセスできないことは、果たして進歩といえるのか疑念がでてくる。結局、企業はコミュニケーションを無用と思っているのではないかと邪推してしまう。

インターネットが流行りだしたころは、デジタル・ディバイドという言葉が使われ、弱者に対する配慮が指摘されていた。マン・マシーン・インターフェースといわれ、最近ではロボットによってコミュニケーション不足を補足しようという時代になっているが、今こそ本来の人と人とのコミュニケーション復活が望まれているように感じる。

(2) コミュニケーションの在り方の変化と時間の増加

人々のコミュニケーションの在り方にも大きな変化が見られる。通信料金の低減化や、スマートホンの普及の影響もあろう。これまでの一対一のコミュニケーションから、多対多のコミュニケーションを可能にする機能の普及も大きい。女子高校生はＳＮＳに一日３時間以上かけるとの統計もある。[6]

文字や音声できちんと伝え、理解し合うのは言語表現の訓練が必要である。対面していれば、伝わっているか表情でも確かめることができるし、わからないことはその場で確認することもできる。表情・動作などの冗長度があれば、コミュニケーションを円滑にすることもできる。対面でない場合は表情が見えず理解困難や誤解が増大する。言葉を推敲できない、時間をかけないコミュニケーションの難しさはもっと意識させる必要があるように思う。正確で誤解の生じない言語活動が必要とされる所以である。

５ 「何をどんな方法で、いつどんなところで教授し学習する」か

英文を書く場面でも、オートメーション化の果たした役割は大きい。一昔前、記録媒体のないタイプライターの時代は、英語で文章をつくることは実に大変な作業であった。あらかじめ原稿を書いておき、入力ミスが無いように注意する必要があったし、文末をそろえるため単語の文節の知識も必要であった。現在のように、記録できるだけでなく、スペルチェックはもちろん、文法チェックや類義語も提示してくれ、きちんと書式も整えてくれる文書作成ソフトは大変な恩恵をもたらしている。最近は音声を読み上げると入力してくれるソフト[7]まででてきた。

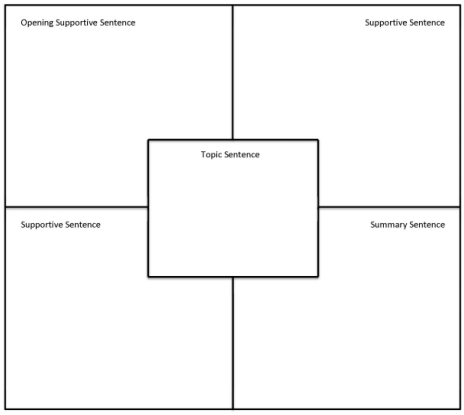
このように編集が可能であるということは、要点を箇条書きにして後で付け加えて行くことが可能になるということである。文章の構成を考え、小刻みなステップで書く部分を増やすことでパラグラフを作っていく作業を作ればいいのである。

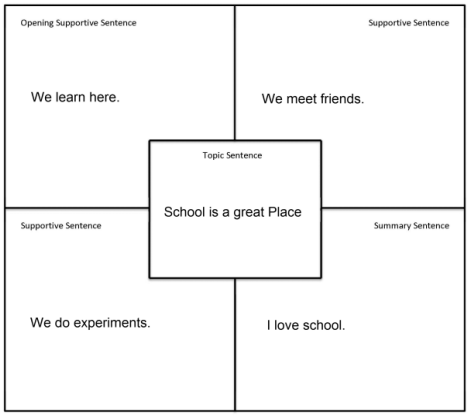
(1)　提案１：作文の構造を「見える化」する（小学校や中学校）

作文を取り組み易くするために表を活用するために、Four Square Writing Method[8]という方法がある。丁寧なホームページもあり、必要なファイルをダウンロードできるようになっている。

例文として、「学校は素敵な所」というタイトルで４文の英文が作る場面が記載されている。

Four-Square Writing Method





例１

Topic	School is a great place
Reason	1 We learn here.
	2 We meet friends
	3 We do experiments.
Summary	4 I love school.

完成すると下の表になるのだろう。さらに文を追加して、例２のような七文の英文をつくる紹介をしている。小さなステップで取り組み易くする工夫がある。印刷しても良いし、急ぐときは四つ折りにした紙を拡げて、真ん中にTopic Sentenceを書くのも良いだろう。

例２

１　We learn here. I like to learn science.
２　We meet friends. My best friend is in my class.
３　We do experiments. I built a volcano yesterday.
４　I love school.

提唱者のJudith S. Gould らは、Bringing 4-Square Writing to life[9]において、最初はひとつのまとまったパラグラフの作成から、複数のパラグラフの作成を意識した接続詞等の使い方、小論文の書き方へと学年が上がるに連れて、より高度な課題へと進む教材の実際とその成果を紹介している。

(2)　提案２：ガイドブックをつくる。（中学校・高校）

初級編：どこの町にも、ＡＬＴがやって来る。彼らはどのような町に住むのか、どのような人と暮らすのか不安と期待がいっぱいのはずだ。今はＥメールを使って簡単に写真や文章を送付できる。中学生なら、こんな美味しいものがあるよとか。地元の名所とか教える英文をつくれるのではないだろうか。自分の書いたものが相手に伝わった喜びというものは、外国語学習の一番の動機付けとなるであろう。

上級編：今年、三角西港と万田抗の２カ所が世界遺産に登録され、訪問者が３倍になったという報道があった。一方、外国からの旅行者は、有名な観光地だけではなく、民宿や田植えの終わった景色にも関心をもっているという。地域の歴史的遺産や観光資源は十分に紹介されているだ

ろうか。それを紹介するガイドブックはあるのだろうか。高校生なら、ガイドブックを英語で作成してはどうだろうか。ＡＬＴと共同でガイドブックをつくった高校もある。(別添資料：熊本県立北稜高等学校)

(3) 提案３：ディベートを導入する。(高校)

昭和22年の学習指導要領でも紹介してあるが、ディベートは言語活動の４技能を駆使する活動である。

ディベートは、二つの異なる立場で構成される。賛成派は、①意見をつくる。②発表する。③自分の立場を守る。 反対派は、①意見を聞く。②質問する。③論駁し、反論をつくる。

あまり準備のいらない簡易なものをタイトルをとしては、どうだろうか。ある高校では、「眼鏡とコンタクト」、「コンビニの深夜営業の賛否」、「制服廃止」などで実施していた。当然発表者は英文を作っておくことが望ましい。「うどんかラーメン」などでは、口角泡を飛ばすディベートになる様子を拝見した。審査員はディベートを聞いている級友がする。

本格的な全国レベルのディベートはと尻込みする場合は、近隣の高校で勉強会をしてはどうだろうか。熊本県でも、10年ほど前には、高校生がディベートをするのは不可能だという声が強かった。熊本県高等学校教育研究会英語部会では、夏休みに合同勉強会を開いている。自校だけではできないことが協働作業をすることで、九州大会で優勝するレベルまで向上している。

(4) 提案４：面白い記事をネットで見つける習慣をつける。(高校・大学)

日本の新聞でも、バイライン（署名入り記事）が増えてきた。その理由として、記載者の責任を問う声が高まってきたことがあると考えられる。学校現場では新聞離れを危惧する意見もあり、ＮＩＥ（Newspaper In Education）が盛んになっている。しかし、日本では個性ある文章を書くのは論説委員のコラムくらいであり、事実のみを伝えることに終始する無味乾燥な記事が多いように思う。コミュニケーションの観点からすると、個性ある文章による記事の面白さが新聞の命のように思う。次のＣＮＮの記事10を読んだとき、日本だったらどんな記事になるだろう、日本の記事もこうなると良いだろうと思った。

Dustin Hoffman saves jogger's life　May 8th, 2012

If you're in trouble, a nearby celebrity might be the one to call.

Dustin Hoffman is the latest in a string of heroic Hollywood stars, as he recently rushed to the rescue of a London jogger whose heart stopped while he was working out at Hyde Park, the **London Evening Standard** reports.

According to the paper, the 74-year-old actor was walking in the park on April 27 when he saw 27-year-old Sam Dempster, a lawyer, “staggering and frothing at the mouth” before he collapsed.

Hoffman called for help and stayed with Dempster as paramedics treated him. As one of the paramedics, Martin Macarthur, told the paper, Hoffman helped save the young man's life.

“We got there very quickly and it was obvious [Dempster] was in cardiac arrest. He was taking dying breaths so we had to act fast,” Macarthur said. “Dustin had turned him

over on to his back, which was really useful and would have assisted in making sure his airways were open.”
If Hoffman hadn't rushed forward to assist, the situation's outcome could've been “very bad,” Macarthur said.
Dempster, who's been recovering since the incident, has said he's “indebted” to Hoffman. “I want to say thank you to Dustin Hoffman. He saved my life,” Dempster told the paper. “I have no memory of what happened. The paramedics told me I had been saved by him. It's unbelievable. I can't wait to go running in the park again.” (Dempster, the paper reports, has been given a device that can detect if there's something wrong with his heart.)

ダスティン・ホフマンはアメリカ在住と思っていたのだが、どうしてロンドンだろうと思い、ついついググりたい衝動に駆られた。彼はハイドパーク近くに約1000万ポンド（13億円）の豪邸をもっていることが判った。

(5)　ネットは英語の宝庫

歌詞、小説、詩などを通して英語の表現を味わってたり、使ってみたいと思う気持ちができれば大成功である。大学でも、面白い記事を読ませたり、ＴＥＤなどの動画も見て活きた英語を活用している。字幕も日英選べるし、自宅での復習も容易になる。その後、感想をＢ４一枚に英文を書かせることもしている。作文は当初は苦痛である。なにせ一つ一つの文の時制、単複、語順を考えなければならない。パラグラフの構成を考えなければならない。提出された作文は、輪読して間違いを探したり、注意事項を指摘したり考えさせる。ここでもネットでの送受信をすれば添削もし易い。学生は数をこなすうちに自分で校正をする習慣ができる。時間はかかるが、ひとりひとりに添削をして返すのは意外と好評である。

作文力も測定する外部評価テストの導入が増える傾向にあるが、まずは相手を意識したコミュニケーション能力を授業では育みたいものだ。

６　最後に

これからの世界はボーダーレスとなり、コミュニケーションの必要性がますます重大になる。この夏、選挙権が18才になるという戦後最大の大転換があった。日本は、これまで議論はあまり好まれない社会であったように思う。何か言いたいことがあっても曖昧（Wooly thinking）な状態にしておくか、黙って耐えるような風潮があった。また反駁するのは、相手の人格まで否定するかのように捉える人も多い。議論をすることでものごとの本質を深めたり、異なったものの見方ができるのであるから、もっとコミュニケーションを盛んにする教育が大切だと思う。議論を大切にする英国には次のような言葉がある。Sticks and stones may break my bones, but words will never hurt you.（棒や石は私の骨を砕くかもしれないが、言葉があなたを傷つけることはできない。）

注

※学習指導要領について

平成12年度 科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）研究成果報告書「現職英語教員の教育研修の実態と 将来像に関する総合的研究」, pp.118-145

第６章 [特別寄稿]学習指導要領における英語教育観の変遷 小泉 仁

文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(Ｂ)英語教員研修研究会

1 島内直英.（2015).「高大接続を考えた英語教育についての考察」九州ルーテル学院紀要ＶＩＳＩＯ 第44号

2 昭和22年学習指導要領外国語編（試案）序文

3 中村紀久二.(1984).「文部省著作 戦後教科書」高等科英語. 大空社

4 http://www.nier.go.jp/guideline/、2015年９月６日

5 松崎徹.（2017）.「英語発音表記変遷史－戦後検定教科書の発音表記の観点からー」 筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報第25号

6 高校生のスマートフォン・アプリ利用とネット依存傾向に関する調査〈速 報〉平成26年５月 総務省情報通信政策研究所

7 Dragon Dictationは日本語も英語も音声を文字にする。Nuance Communications 社

8 http://www.studenthandouts.com/01-Web-Pages/Lot-01/Four-Square- Writing-Method.htm、2015年９月６日

9 http://www.d46.org/2011conference/pdf/454Squarepres.pdf#search='Bringing+4Square +Writing+to+life、2015年９月６日

10 http://marquee.blogs.cnn.com/2012/05/08/dustin-hoffman-saves-joggers-life/、2015年９月６日

Welcome to "Tensui"--Inspiration for the animated movie "Kaze Tachinu" directed by Hayao Miyazaki-

"Kusamakura spa

One can see wonderful scenes of Ariake sea and Shimabara from here. and also feel pleasant breeze. There are Chishu Ryu's memorabilia are in the lobby. He is an actor who performed in th e film "Otoko-wa-tsuraiyo".

Kusamakura-Sansou, cottage

Kusamakura-Sansou is the accommodation. If you come here, you can enjoy a spa and barbeque.

The Japanese hotel "Nakoi-Kan"

Go to this inn when you are hungry. You can enjoy eating foods in a traditional restaurant inn. When you eat dishes from here, you will feel enriched and be satisfied .

The Maeda's second house

Have you ever seen the film "Kaze Tachinu"? A main character, Jiro Horikoshi and his wife, Naoko appeared in this story. The house is based on the one that they lived in.

Souseki Natsume visited Maeda's second house on New Year's Eve in 1898. In those days, Oama hot springs was the closest one to Kumamoto city. And, this hot spring was visited by many of the upper class. Souseki Natsume, who wrote "Kusamakura" , also came here to enjoy some quiet time on New Years day. This novel is very popular and is read not only in Japan but also abroad. Now anyone can see Maeda's villa for free.The bustub and living room remain.

Please read a novel, "Kusamakura" if you never have Try going there, and you can learn about the Soseki's novel more at "the Tourist information center of Kusamakura".

Kusamakura koryukan- - a tourist information center

It is possible to learn not only about Soseki Natsume but Toten Miyazaki and Maeda family. Moreover, we can understand the connection between Hayao Miyazaki and "Kusamakura.

You can also follow the path on which Souseki Natsume walked—from Kumamoto to Maeda's second house. It is the route which is organized as "Kusamakura route" We recommend walking this route as you may find something new.

Hokuryo high school
Academic course